

EARTH on EDGEコンソーシアムにおける 社会起業家人材育成プログラム開発の試み

-フレームワーク、プランニング・ワークシート開発編-

三上 淳¹、加藤 知愛²、祇園 景子³、鶴田 宏樹³、友瀨 貴之⁴、石田 祐⁴、武田 浩太郎⁵、阿部 晃成⁵、石井 旭⁶

1. 小樽商科大学、2. 北海道大学、3. 神戸大学、4. 宮城大学、5. 東北大学、6. 北海道立総合研究機構

文科省次世代アントレプレナー育成事業 2019年度共通基盤事業 レジリエント社会構築を牽引する起業家精神育成プログラム

復興プロセスを振り返って考える未来のレジリエンス社会

—神戸・東北・北海道を巡る—

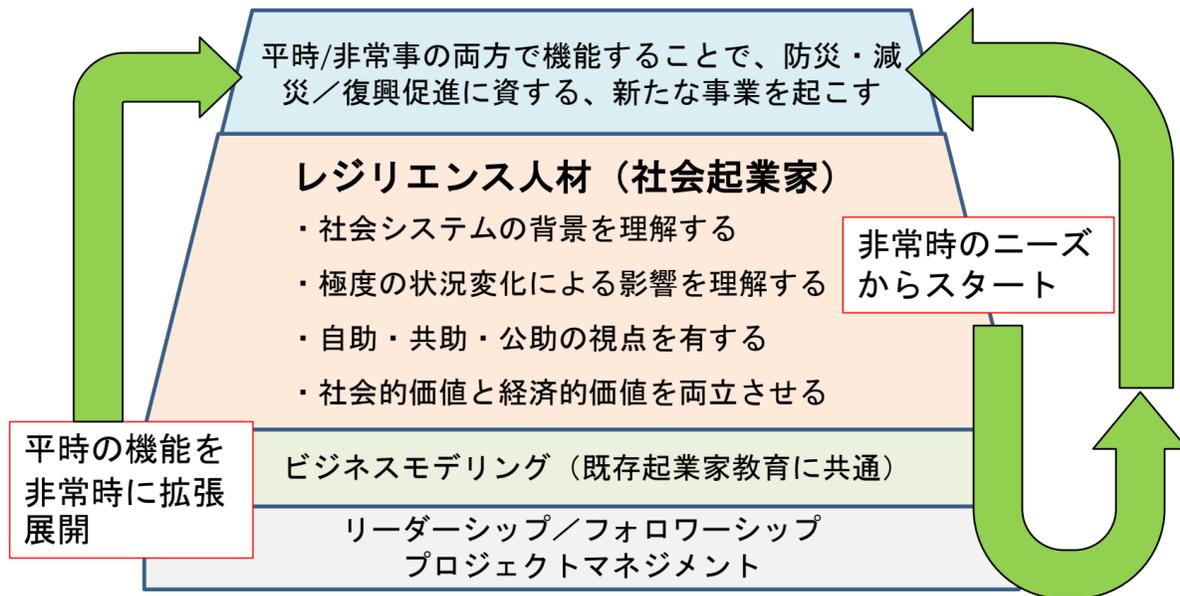
フレームワーク開発趣旨

本プログラムは、既存の起業家人材育成やマネジメント教育、リーダーシップ教育を土台に、社会起業家精神を持った人材育成を目指している。そのため、既存のビジネスワークシートでは整理できない要素が含まれる。

そこで、本プログラムにおけるレジリエンスの定義とプログラム内で習得を目指す4つのスキル・マインドを、理想的な受講生の思考のフローとして整理し、全体を俯瞰するフレームワークにまとめた。それを基に、独自のプランニングワークシートを開発した。

事業モデル創出のアプローチは、非常時にニーズからのスタートと、平時の機能を非常時に拡張する2パターンを想定している。

事業モデル創出のアプローチ

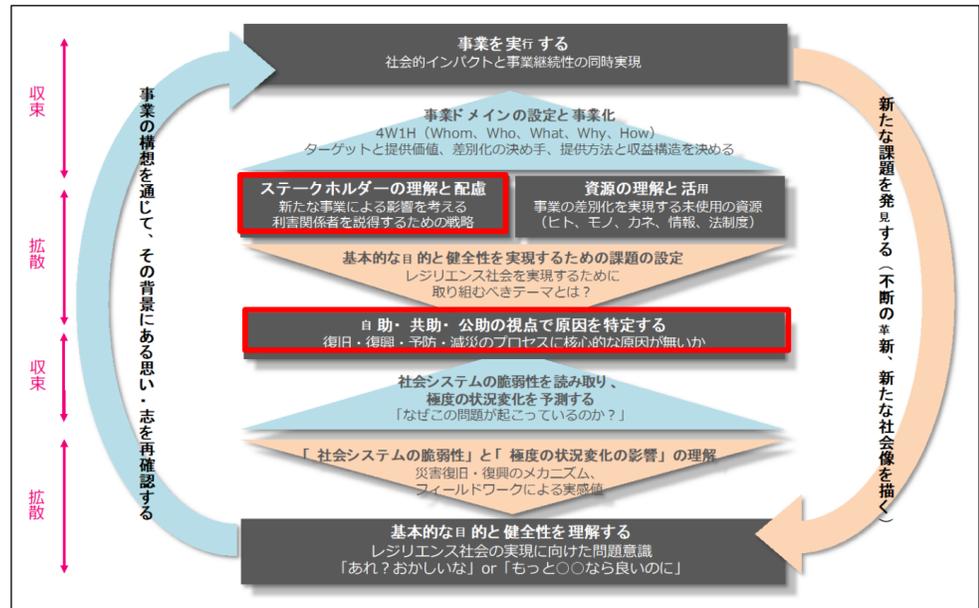


プログラム全体を俯瞰する フレームワーク

プログラムにおける習得目標と受講者の思考のフローを、右図のようなフレームワークにまとめた。受講者は、拡散と収束、思考のイタレーションを繰り返しながら、事業アイデアをまとめてゆく。

既存の起業教育における枠組みとの違いは、下記2点である。

- ステークホルダーの理解と配慮
- 自助・共助・公助の視点で原因を特定する



開発したプランニングワークシート

プランニング・ワークシート	
事業/ビジネス アイデア名:	大学名: 氏名:
実現したい「個人・地域・社会システム」の『基本的な目的・健全性』	事業/ビジネスによって実現する「防災・減災の未来のシナリオ」
認識した社会システムの脆弱性 予測した極度の状況変化	ターゲットとなるユーザー (想定する地域や属性) 提供する価値 商品・サービスの機能 事業/ビジネスの流れ (ビジネスの形態、ヒト・モノ・カネ・情報の流れ、どこで利益を生み出すか等)
不足しているアプローチ アプローチが不足している原因や経緯 (仮説含む)	事業/ビジネスのステークホルダー 事業/ビジネスを支える経営資源 事業/ビジネスは社会システムの「自助・共助・公助」どこにアプローチするものか
事業/ビジネスを通して取り組みたい事項 (何に手を打つべきか)	影響を受ける外部環境 資金や原料の調達 法律や規制 新技術の登場 人材の調達や確保 競合や類似のビジネス 社会システムの変化

事業/ビジネスによって実現する「防災・減災の未来のシナリオ」

今後の課題

- エントリーシートとワークシートの接続の設計見直し（今年度の受講者は、エントリー時に「事業アイデア」のみを記載）
- プログラム趣旨に沿ったワークシート項目の設定・改良（ex. 「平時/非常事の両方で機能する」等）

事業（ビジネス）は社会システムの「自助・共助・公助」のどこにアプローチするのか